

第09-2号診療記録不開示苦情調査報告書

2009年8月28日採択

1. 申立事項

申立者氏名 A

患者氏名 Aの夫(男性) 年齢 86歳(享年)

相手方機関の名称 病院(公表しない)

代表者氏名(公表しない)、住所(公表しない)

開示請求年月日 2009年4月頃

開示されなかった診療記録

診療録、処方せん、看護記録、検査所見記録、紹介状の全部

不開示記録の範囲 2005年10月21日～2005年12月

2. 調査経過

調査日 2009年6月19日

医療機関側当事者 院長他4名

特記事項

調査時点で、正式な開示請求がなかったと説明され、請求があれば開示するとの回答も得たため、調査後ただちに申立人が開示請求書類を作成し、請求した。

3. 医療機関側の主張する不開示理由

規約に則った正式な開示請求がなかったためとしている。

本件請求以前に、薬の処方に関する記録の開示請求を受けたので、開示の手続きを説明し、請求書類に記載してもらって処方に関する記録を開示した。本件請求については、申立人がカルテ開示請求を口頭で行った際、開示手続につき説明し、理事長の許可がいたるところ、申立人が書面で請求をしなかった。

4. 判断

非開示の経過について、申立人が面談相談時に述べた説明と異なる部分も存在するが、2008年に申立人から相手方へ対して行われた開示請求に対しては、薬剤の処方に関する文書を作成し交付していること、その後書面による正規の開示請求をしていないことは、事実として認定される。

5. 調査後の経過

2009年7月15日、申立人へ開示されたことが確認された。

以上